

(2) 社会的要素

1) 歴史・文化

本州の最西端に位置する下関市は、関門海峡を挟んで九州と対峙し、朝鮮半島や中国大陸と近接するという地理的特性から、古くから海上・陸上の交通の要衝として栄え、大陸からの文化の伝来と交流が盛んに行われました。

また、幕末～明治維新时期など日本史の節目節目の重要な舞台として、さまざまな歴史のドラマが展開され、下関の歴史が築きあげられました。

以下に、次の時代区分に対応した下関のあゆみ、およびそれらを語り継ぐ景観特性をとりまとめます。

<時代区分>

- ・ 古代：平安時代以前
- ・ 中世：鎌倉時代 1192 年～戦国時代末まで
- ・ 近世：安土桃山時代～江戸時代まで
- ・ 近代：明治以降

表 2-1 下関市の歴史(1 / 6)

時代区分		主なあゆみと景観資源
古代	原始時代	<p>土井ヶ浜遺跡、綾羅木郷遺跡などの遺跡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 響灘沿岸一体は数多くの弥生時代の遺跡が発掘されている ・ 日本海側の海岸から内陸部へと集落社会が形成され、やがて瀬戸内側にも人口の集積が広がる <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>図 2-18 遺跡を紹介する博物館</p> <p>左: 土井ヶ浜遺跡 人類学ミュージアム(土井ヶ浜遺跡)</p> <p>右: 下関市立考古博物館(綾羅木郷遺跡)</p>

表 2-1 下関市の歴史(2 / 6)

時代区分		主なあゆみと景観資源
古代	飛鳥～ 奈良時代	<p>長府国府開設、長府の都の始まり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本書紀」には、「豊浦に仲哀天皇と神功皇后が豊浦宮(皇居)を造営した」と記される ・大化の改新後、長門の国府が置かれ、「<u>長府</u>」と呼ばれるようになる ・「和同開珎」が鑄造された<u>長門鑄銭所跡</u>も残る
	平安時代 文治元年 (1185年)	<p>源平の合戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>壇ノ浦</u>にて源氏と平家の間で雌雄を決する最後の合戦(平家が滅亡、武家中心の社会へ) ・<u>赤間神宮</u>では、壇ノ浦に入水した安徳天皇の慰霊のための祭事「先帝祭」が行われている <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>図 2-19 壇ノ浦合戦を物語るみもすそ川公園</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>上: 図 2-20 源平壇之浦の合戦で滅びた平家一門を偲ぶ先帝祭</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  <p>左: 図 2-21 源平船合戦 (いずれも、しものせき海峡まつりより)</p> </div>
中世	室町時代	<p>朝鮮との交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室町時代には、大内氏をはじめ、中小の海商的領主たちの朝鮮交易の拠点となり、町には朝鮮人の居住も認められるなど、東アジアの海港都市として繁栄

表 2-1 下関市の歴史(3 / 6)

時代区分	主なあゆみと景観資源
<p>近世</p> <p>慶長 5 年 (1600 年)</p>	<p>城下町長府のはじまり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毛利秀元は関ヶ原の合戦後、3万6千石の城下町を長府に開く <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <p>図 2-22 長府の街並み・古江小路</p> <p>図 2-23 壇具川と長府藩侍屋敷長屋</p> </div>
<p>慶長 17 年 (1612 年)</p>	<p>宮本武蔵と佐々木小次郎が舟島(巖流島)で決闘</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <p>図 2-24 巖流島</p> <p>図 2-25 関門海峡の雄大な眺めを 背景に対峙する武蔵と小次郎の像</p> </div>
<p>寛永 12 年 (1672 年)</p>	<p>北前航路の開設、海上交通の拠点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西廻り航路が開かれると、下関は北前船の寄港地として、諸国の産物を運ぶ船が出入りし、400軒もの問屋が軒を並べた ・「西の浪華」といわれるにぎわい
<p>江戸時代</p>	<p>朝鮮との交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幕府の海禁政策のため、朝鮮半島との直接的な交渉は途絶えたが、朝鮮通信使の11度にわたる寄港により、彼地の人々との交流は続き、朝鮮の風俗や先進的な文化が伝わった ・阿弥陀寺 が通信使の客館となった <p>源平争覇の末、壇ノ浦に入水した安徳天皇を祀る寺院。現在は、寺院の姿を見ることはできないが、「阿弥陀寺町」という町名だけが残る。赤間神宮が阿弥陀寺を継承している。</p>

表 2-1 下関市の歴史(4 / 6)



時代区分		主なあゆみと景観資源
近世	江戸時代	<p>街道筋に花開いた文化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九州や大陸との玄関口であった赤間関や城下町長府と、京都や萩とを結ぶ複数の街道が整備されると、街道筋のまち・集落では交流による文化が形成された <p>旧西国街道（山陽道）、旧赤間関街道（中道筋、北浦道筋、北道筋）、旧肥中街道、旧長府街道</p>  <p>図 2-26 旧西国街道(山陽道)の宿場として栄えた吉田の街並み(歩道の景観整備)</p>
	江戸時代 文久3年 (1863年)	<p>明治維新発祥の地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幕末に高杉晋作は、身分を超えた奇兵隊を結成し、倒幕を進める吉田には奇兵隊陣屋跡が残る ・<u>関門海峡</u>では、長州藩と外国艦隊との間で<u>馬関戦争</u>が起こる ・長州藩は幕府を倒し、明治維新を実現   <p>図 2-27 高杉晋作を葬った東行庵</p> <p>図 2-28 奇兵隊陣屋跡</p>
近代	明治22年 (1883年)	<p>市制施行（赤間関市）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の市町村制開始の際、山口県でただひとつ、赤間関市として市政を施行

表 2-1 下関市の歴史(5 / 6)

時代区分	主なあゆみと景観資源
<p>明治 28 年 (1895 年)</p>	<p>日清講和会議の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日清戦争の講和会議が下関の春帆楼で開催される ・下関条約が締結され、日本は列強の仲間入りを果たす <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>図 2-29 史蹟春帆楼 「ふぐ料理」の公許第 1 号店</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>図 2-30 日清講和記念館</p> </div> </div>
<p>明治33年~ (1900年~)</p>	<p>鉄道交通の拠点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治 33 年 (1900 年) 山陽鉄道が下関まで開通、優等列車が発着する西の一等駅 ・大正 15 年 (1926 年) 長府松原-壇之浦に市街電車が開通 西細江まで延伸 唐戸で分岐し幡生に至った (現在は廃線) ・昭和 8 年 (1933 年) 山陰線が全線開通 ・昭和 17 年 (1942 年) 関門鉄道トンネルが開通、現在の駅舎が竹崎町に開業
<p>明治 38 年 (1905 年)</p> <p>昭和 45 年 (1970 年)</p>	<p>関釜航路の開通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下関と釜山の間に関釜連絡船が就航、大陸への玄関口 (終戦で同連絡船は途絶える) <p>関釜フェリーの就航</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和 51 年 (1976 年) には釜山広域市と姉妹都市締結
<p>戦中・戦後</p>	<p>下関大空襲と復興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和 20 年には 2 回にわたり大空襲に遭い、市街地は多大な被害を被った ・復興事業は着実に進み、昭和 33 年 (1958 年) 関門国道トンネル開通、昭和 29 年 (1954 年) 木屋川ダム完成

表 2-1 下関市の歴史(6 / 6)

時代区分	主なあゆみと景観資源
昭和28年~ (1953年~)	昭和の大合併、菊川町、豊田町、豊浦町、豊北町の誕生
昭和31年 (1956年) 昭和33年 (1958年)	<p>観光都市の始まり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下関水族館完成、当時東洋一の規模といわれる ・火の山ロープウェイ開業、2003年に休止。2005、2006年に実証運行。2007年より期間限定運行再開 ・火の山、満珠・干珠が瀬戸内海国立公園に編入  <p>図 2-31 季節運行する火の山ロープウェイ</p>
昭和41年 (1966年)	<p>西日本有数の水産基地と捕鯨基地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下関漁港水揚げ高日本一となる ・明治期に近代捕鯨発祥の地となり、戦後も、南氷洋捕鯨の捕鯨船基地、鯨肉の流通・加工基地として繁栄
昭和48年 (1973年) 昭和50年 (1975年)	<p>新たな交通拠点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関門橋・中国自動車道(下関-小月間)開通 ・山陽新幹線開通、新下関駅の開業
昭和後期 ~平成	<p>都市の整備・ウォーターフロント開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新水族館「海響館」、新唐戸市場、国民宿舎「海峡ビューしものせき」、フィッシャーマンズワーフ「カモンワーフ」 ・菊川ふれあい会館アブニール、道の駅きくがわ ・豊田ホテルの里ミュージアム、道の駅壺街道西の市 ・リフレッシュパーク豊浦 ・土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム、つのしま自然館、角島大橋の開通
平成17年 (2005年)	<p>新「下関市」誕生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下関市、菊川町、豊田町、豊浦町、豊北町の1市4町が合併し、県内最大の都市が誕生 ・中核市への移行

2) 市街地等

【関門海峡沿いの中心市街地周辺】

関門海峡に面する下関市の中心市街地は、主要な陸上交通の幹線が集まり、特定重要港湾の下関港を擁した海陸交通の拠点都市であるとともに、我が国屈指の水産都市として、また、県を代表する商業、工業都市として高次都市機能の集積する中心的役割を果たしています。

下関駅前は高度利用され、商業業務施設やマンションなどの比較的高層な建築物が立地します。駅前通りは景観整備がなされていますが、沿道建築物はボリューム、色彩ともに不揃いなものが多くみられ、街並みとしての調和に欠けている面もあります。

目抜き通りの先には、関門海峡を一望することができるシンボリックな海峡ゆめタワーを望むことができます。



図 2-33 商業業務施設が集積する下関駅前

数多くの観光スポットが存在し、交流の拠点となっている唐戸地区では、あるかば一と地区の海響館をはじめ、特産品である海の幸を求めて多くの人で賑わう唐戸市場などがあるほか、海沿いにはボードウォークが整備され、海を身近に感じる空間が形成されています。

また、歴史的にも旧下関英国領事館や旧秋田商会、南部町郵便局などの近代化建築物が点在し、夜間にはライトアップされるなど、街並みにレトロな雰囲気を与えています。



図 2-34 海響館



図 2-35 カモンワーフとボードデッキ - 23 -



図 2-36 賑わいをみせる唐戸市場



図 2-37 関門海峡に臨む水際に整備された
ボードウォーク



図 2-38 街角に残る近代化建築物
(左:下関市南部郵便局、右:秋田商会)



図 2-39 街角に残る近代化建築物
(旧下関英国領事館)

【豊浦】

豊浦地域は、豊かな自然環境を有し、下関地域や北九州都市圏と近接しています。豊浦の中心市街地は国道 191 号沿いの JR 川棚温泉駅を中心に形成されており、国道沿道には商業施設が多数立地します。

観光資源では温泉があり、川棚温泉は約 800 年の歴史を持ち、江戸時代には藩主であった毛利侯の湯治場として利用されていました。現在では、国土交通省中国地方整備局が進める夢街道ルネサンス認定地区に指定され、街道沿いの歴史や自然などの地域資源を活かした取り組みが進められています。

また、室津は明治以前の中心的な港町であり、港町の風情が残っています。



図 2-40 コミュニティ情報プラザを併設した
川棚温泉駅

(出典:ふるさとのまちムラ 100 景
/ 下関地域づくり推進実行委員会)



図 2-41 川棚湯町



図 2-42 室津の街並み

(出典:ふるさとのまちムラ 100 景
/ 下関地域づくり推進実行委員会)



図 2-43 豊浦市街地の遠望

(厚島展望公園より望む)

【滝部（豊北）】

豊北地域は、響灘のリアス式海岸に発達した地域であり、溺れ谷の奥に和久・特牛・肥中・島戸浦の漁村が発達し、特に特牛は大内氏時代の軍港で、近世北前航路の要津でもありました。

豊北地域の中心地である滝部は、国道 435 号、県道 39 号、及び JR 山陰本線滝部駅を骨格として形成されており、公共施設のほか比較的規模の大きい商業施設が立地しています。

また、中心部には、ルネッサンス様式を取り入れ、石造建築を木造に引き写した珍しい建物である、豊北歴史民俗資料館（旧滝部小学校）が残っています。



図 2-44 豊北歴史民俗資料館
（旧滝部小学校）

【豊田】

豊田地域は大部分が山林に占められており、豊かな田園景観が広がる地域です。

豊田地域の中心である西市では、県道 34 号沿道に市街地が形成されており、支所や道の駅などの公共施設や西市高校などの文教施設が立地するほか、県道沿いには店舗が立地しています。また、殿敷団地の住宅地開発も見られます。

西市は古くは旧赤間関街道（北道筋）と旧肥中街道が交差し宿場町として栄え、旧道に入ると街道の歴史を伝える街並みが残っています。



図 2-45 道の駅 蛭街道西ノ市



図 2-46 ホタルの里ミュージアム



図 2-47 旧街道沿いの街並み
(出典:ふるさとのまちムラ 100 景
/ 下関地域づくり推進実行委員会)

【菊川】

菊川地域は、「小日本」と称され、日本の原風景が残る地域です。

菊川の中心部には、運動公園やふれあい会館などの市の文化施設のほか、田部高校などの文教施設、バスターミナル、道の駅や産直販売施設などが立地します。

市街地形成の骨格となっている国道 491 号線沿いでは、比較的商業が発達しており、大店舗の立地も見られます。

菊川は古くは、旧赤間関街道（北道筋）の宿場として栄えており、船場には街道の歴史を伝える街並みが残っています。



図 2-48 道の駅きくがわ



図 2-49 小日本ふるさと市

3) 法規制の状況

下関市の土地利用に関わる法規制状況は、下図に示すように、2つの都市計画区域、および3つの自然公園地域が指定されています。また、景観に係る規制・誘導としては、自主条例に基づく大規模建築物等の届出(旧下関市内)及び関門景観形成地区が指定されています。

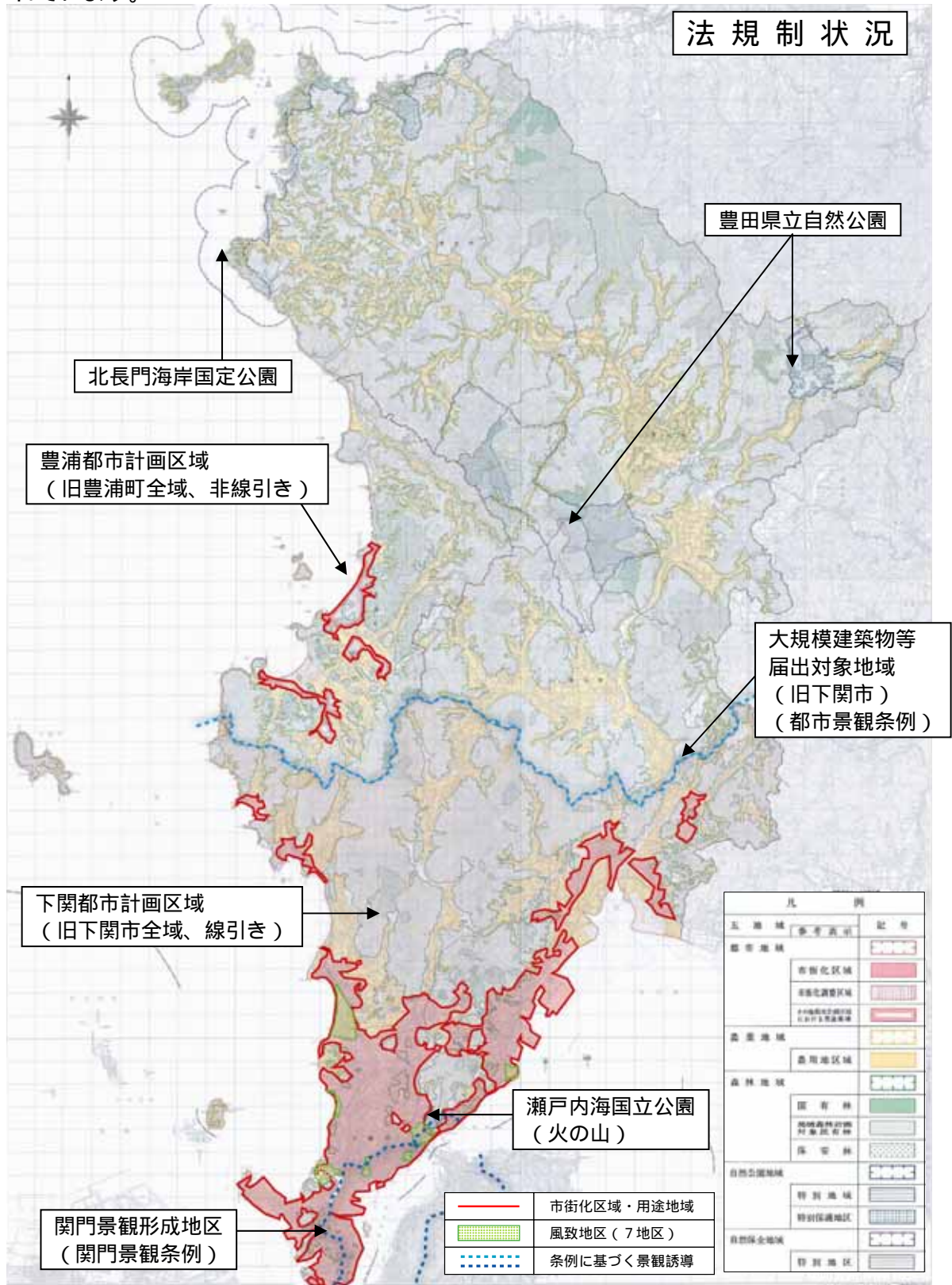


図 2-50 法規制状況

(出典:山口県土地利用基本計画図(下関地区)/平成11年3月)

4) 交通ネットワーク

人々の移動や交流、景観の視点場となる交通施設のネットワークについて整理します。

幹線道路

下関市には、中国自動車道、山陽自動車道、国道2号、9号、191号、435号、491号などがあり、主要道路が集中しているとともに、県道により各地域がネットワークされています。

市の日本海沿いに走る国道191号は、別名西長門ブルーラインと呼ばれ、コバルトブルーの海と白い砂の海岸が美しいドライブルートになっています。

また、響灘の海岸線を走る国道191号、関門海峡を臨む国道9号を軸として、国道2号・491号や主要地方道沿線地域一帯は、本州最西端の道「風波のクロスロード」として、日本風景街道に登録されており、沿道の地域資源を活かした美しく楽しい道づくりに取り組んでいます。



図2-51 海岸沿いを走る
西長門ブルーライン

鉄 道

市内の鉄道は、瀬戸内側を山陽新幹線、山陽本線、また、日本海に沿うように山陰本線が通ります。

そのうち、山陰本線は、美しい日本海の海岸線や田園風景の中を縫うように走り、特に小串駅～湯玉駅間、宇賀本郷駅～長門二見駅間、阿川駅～長門栗野駅間の車窓からは、海岸沿いの優美な眺めを見ることができます。



図2-52 車窓から美しい海岸の眺めを見ることができる山陰本線

バ ス

バス路線は通勤通学者、高齢者、また観光客の足となっています。

旧下関地区の海響館シャトルバスや、豊浦地区の生活福祉バスなど個性豊かなバスがあり、道路景観の一要素となっています。

海上交通

主な海上交通としては、北九州の小倉、門司港を結ぶルート、また、市内で2つの有人離島である蓋井島、および六連島を結ぶルートがあり、船上からは美しい関門海峡や響灘を見ることができます。



図 2-53 連絡船航路
出典: 下関市港湾局

交通施設からの景観

角島大橋



山陰本線の絶景ポイント

西長門ブルーライン(国道191号)
(日本風景街道登録ルート)



山陰自動車道
(計画)

下関西道路
(下関北バイパス
一部供用)

凡例	
	高速道路
	国道
	主要地方道
	一般県道
	鉄道
	航路
	市役所 本庁舎
	総合支所
	支所
	下関市域
	旧市町村界

船から見る関門海峡



(出典:ふるさとのまちムラ100景/
/下関地域づくり推進実行委員会)

関門海峡道路
(計画)

北九州市

図 2-54 交通施設からの景観
(図出典:下関市総合計画)

2 - 2 下関市の景観資源

(1) 景観資源の整理

既存資料や市民アンケートから得られた下関市の有する特徴的な景観資源を、以下の4つの分類により、整理します。

景観資源の位置図を次頁以降に示します。また、資料編には、資源の一覧表を示しています。

自然景観

人間の手が加えられていない、または自然に近い状態の景観を分類します。

例えば、山、海（海岸、海峡、島）、川、湖などの地形を形成する要素や、自然公園などを対象としました。

歴史景観

古代から近代までの歴史の中で造り上げられた、また、歴史の舞台となった景観を分類します。

例えば、市内に残る社寺や史跡、遺跡、歴史的建造物、また、それらが集積したまちなみなどを対象としました。

都市・まち景観

現代の人間の生活の基盤となる景観を分類します。

例えば、都市の骨格を形成している道路や、人々の生活や活動の場となる住宅地や商業地、工業地の建物やまちなみ、また、公共施設や観光・レジャー施設などを対象としました。

くらし・文化景観

都市やまちの中での人々の生活の営みによる景観を分類します。

例えば、農業や漁業などの風景や、年中行事、祭りなどの伝統的行事、市場などを対象としました。

眺望景観

上記景観資源に併せて、下関市の特徴となる眺望景観（ながめ）についても、“視点場となる場所”と“眺めの対象”について、各地域の代表的な景観を調査しました。

特に、海岸沿いに位置する視点場（神社、山、公園など）からの海への眺望が特徴的であり、その眺めを楽しむ観光スポットとなっている視点場も多く存在しています。

調査により抽出された眺望景観について、その視点場の特性から分類整理します。

< 視点場の特性 >

歴史性：歴史の舞台となった場所、歴史的な重みのある場所など

拠点性：多くの人を訪れる観光スポットや市民の憩いの場など

眺望性：視界が開け、眺望の良好な場所など

表 2-2 視点場の分類(1 / 2)

視点場の位置		歴史性	拠点性	眺望性
中心市街地	低	<ul style="list-style-type: none"> ・みもすそ川公園 ・巖流島 ・唐戸渡船場 ・細江ふ頭 	<ul style="list-style-type: none"> ・みもすそ川公園 ・海響館 ・巖流島 ・唐戸市場 ・カモンワーフ ・唐戸渡船場 ・細江ふ頭 	<ul style="list-style-type: none"> ・みもすそ川公園 ・国道2号 ・国道9号 ・巖流島 ・唐戸市場 ・カモンワーフ ・唐戸渡船場
	中	<ul style="list-style-type: none"> ・赤間神宮 ・亀山八幡宮 	<ul style="list-style-type: none"> ・赤間神宮 ・亀山八幡宮 ・港の見える丘の径 ・壇ノ浦 PA 	<ul style="list-style-type: none"> ・赤間神宮 ・亀山八幡宮 ・港の見える丘の径
	高	<ul style="list-style-type: none"> ・火の山山頂 ・日和山公園 	<ul style="list-style-type: none"> ・火の山山頂 ・日和山公園 ・海峡ゆめタワー 	<ul style="list-style-type: none"> ・日和山公園 ・海峡ゆめタワー ・関門大橋から ・国民宿舎・海峡ビューしものせき
その他の旧下関地域	低	<ul style="list-style-type: none"> ・功山寺 ・豊功神社 	<ul style="list-style-type: none"> ・マリン温泉パーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・国道191号線（西長門ブルーライン） ・大字吉見 ・綾羅木海岸 ・マリン温泉パーク

低：水際や低地 中：山の中腹など 高：山頂や展望タワーなど

表 2-2 視点場の分類(2 / 2)

視点場の位置		歴史性	拠点性	眺望性
その他の旧 下関地域	中			・旧彦島有料道路・彦島大橋
	高	・戦場ヶ原公園	・老の山公園 ・戦場ヶ原公園 ・彦島南公園	・老の山公園 ・金毘羅公園 ・関見台公園 ・戦場ヶ原公園 ・彦島南公園 ・四王司山 ・竜王山
日本海側 (豊浦・豊北)	低	-	・角島大橋 ・角島	・国道 191 号線(西長門ブルーライン) ・角島大橋 ・角島 ・附野 ・神田小学校横の浜 ・島戸
	中	・福德稻荷神社	-	・厚島展望公園
	高	・角島灯台	・角島灯台	・狗留孫山 ・大浦岳 ・阿川岳山 ・西長門リゾートホテル
内陸部 (菊川、豊田)	低	-	-	-
	中	・多武の峰公園	-	・長正司公園 ・多武の峰公園
	高	-	-	・華山 ・貴飯峠、田部峠

低：水際や低地 中：山の中腹など 高：山頂や展望タワーなど

< 景観資源図 旧下関地区（自然、歴史） >

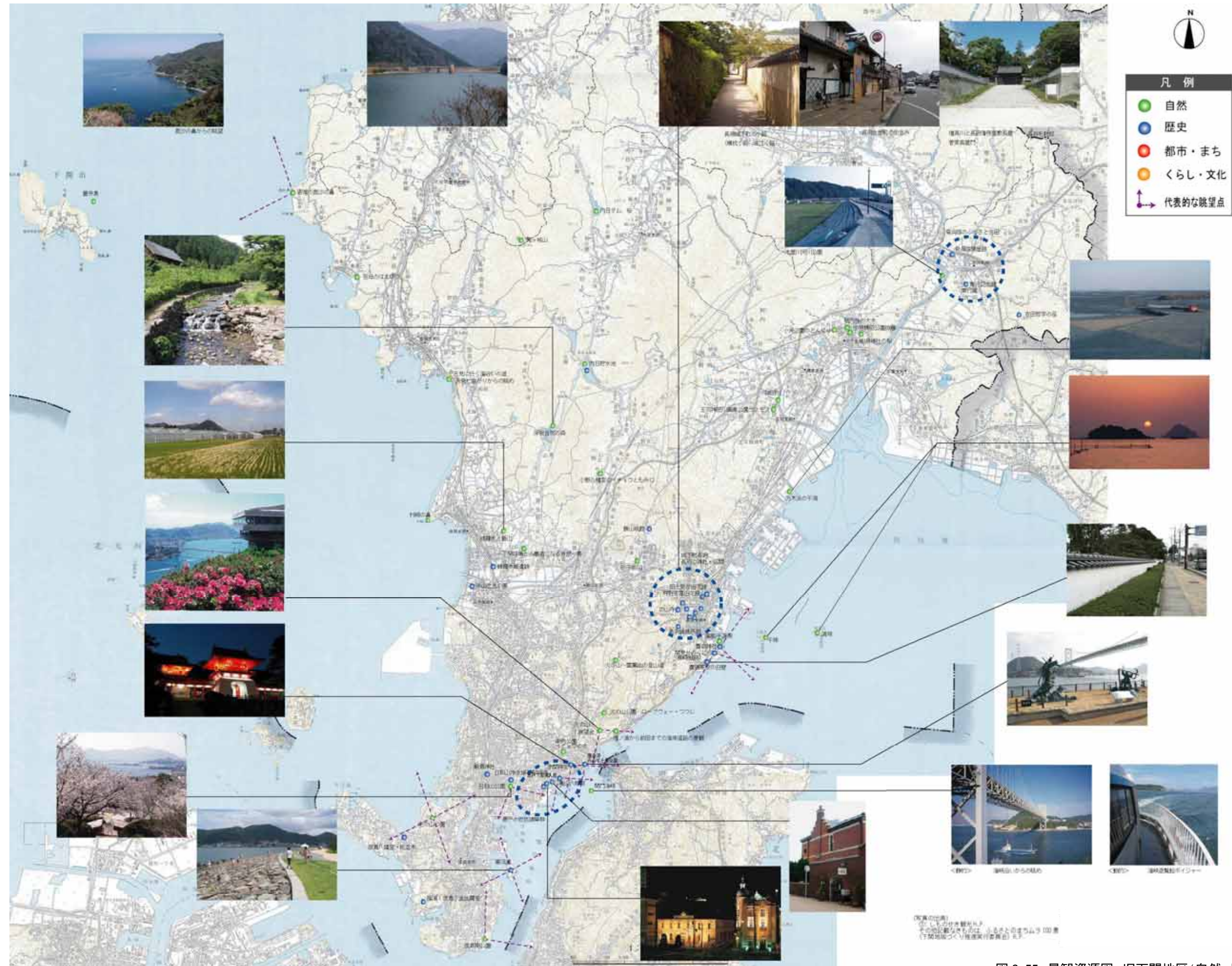


図 2-55 景観資源図 旧下関地区(自然、歴史)

< 景観資源図 旧下関地区(くらし・文化) >

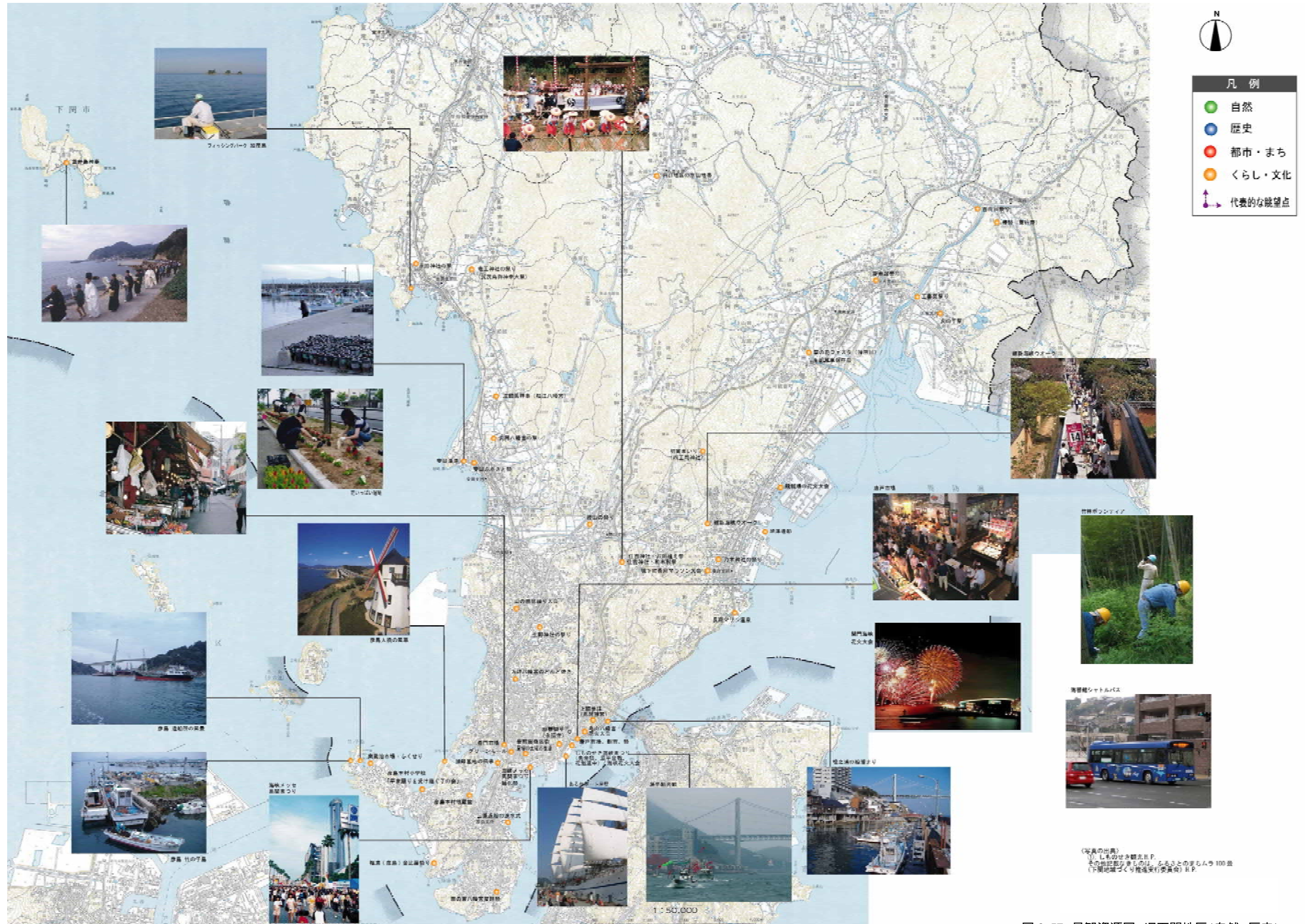


図 2-57 景観資源図 旧下関地区(自然、歴史)

< 景観資源図 豊浦地区 >

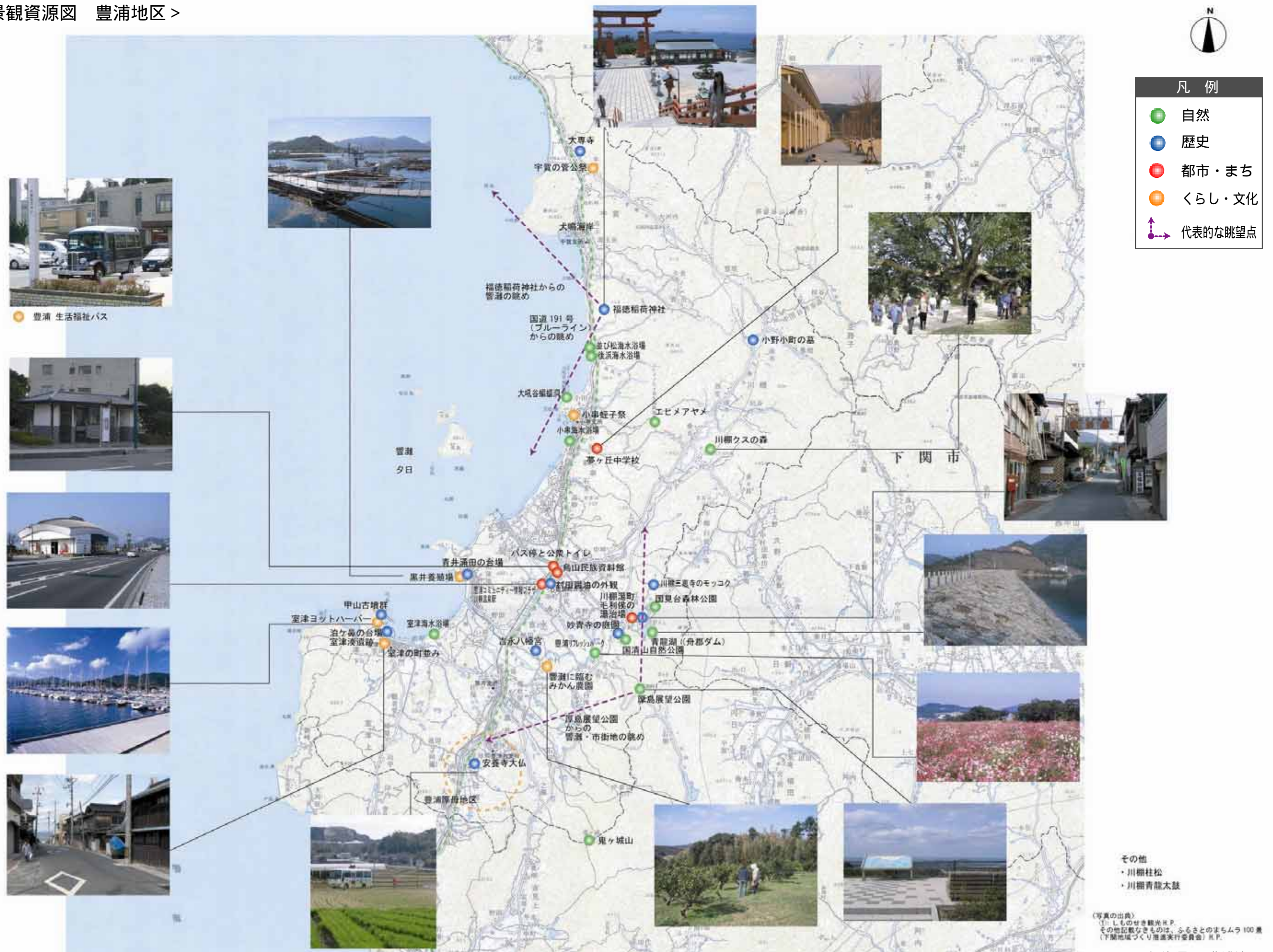
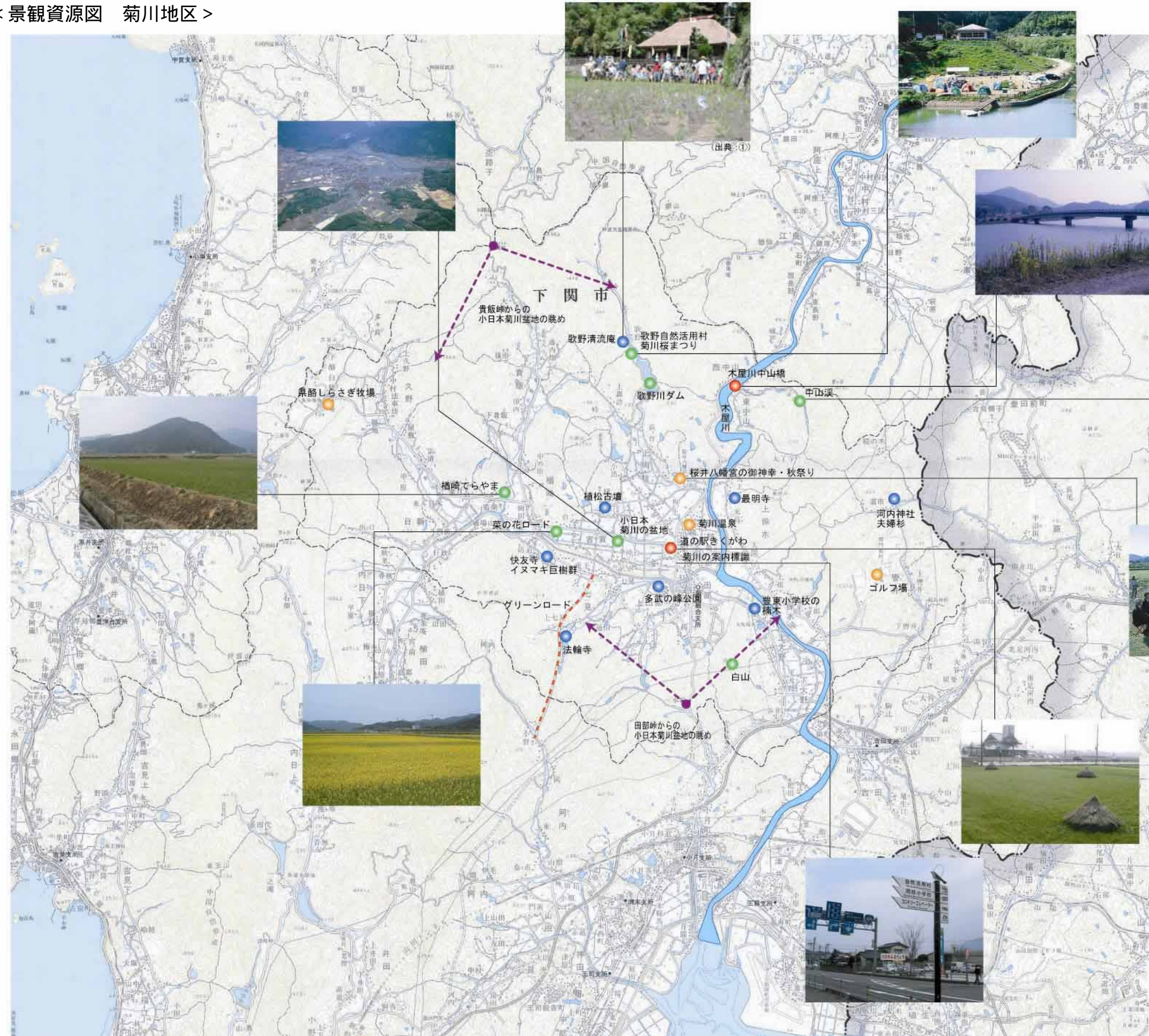


図 2-58 景観資源図 豊浦地区

< 景観資源図 菊川地区 >



凡例	
● 自然	● 歴史
● 都市・まち	● 暮らし・文化
➡ 代表的な眺望点	

- その他
- ・ 菊川町公民館祭り
 - ・ 菊川夏祭り、花火大会 (運動公園)
 - ・ 菊川町文化産業祭
 - ・ 製種業 (そうめん)
 - ・ イチゴ狩り

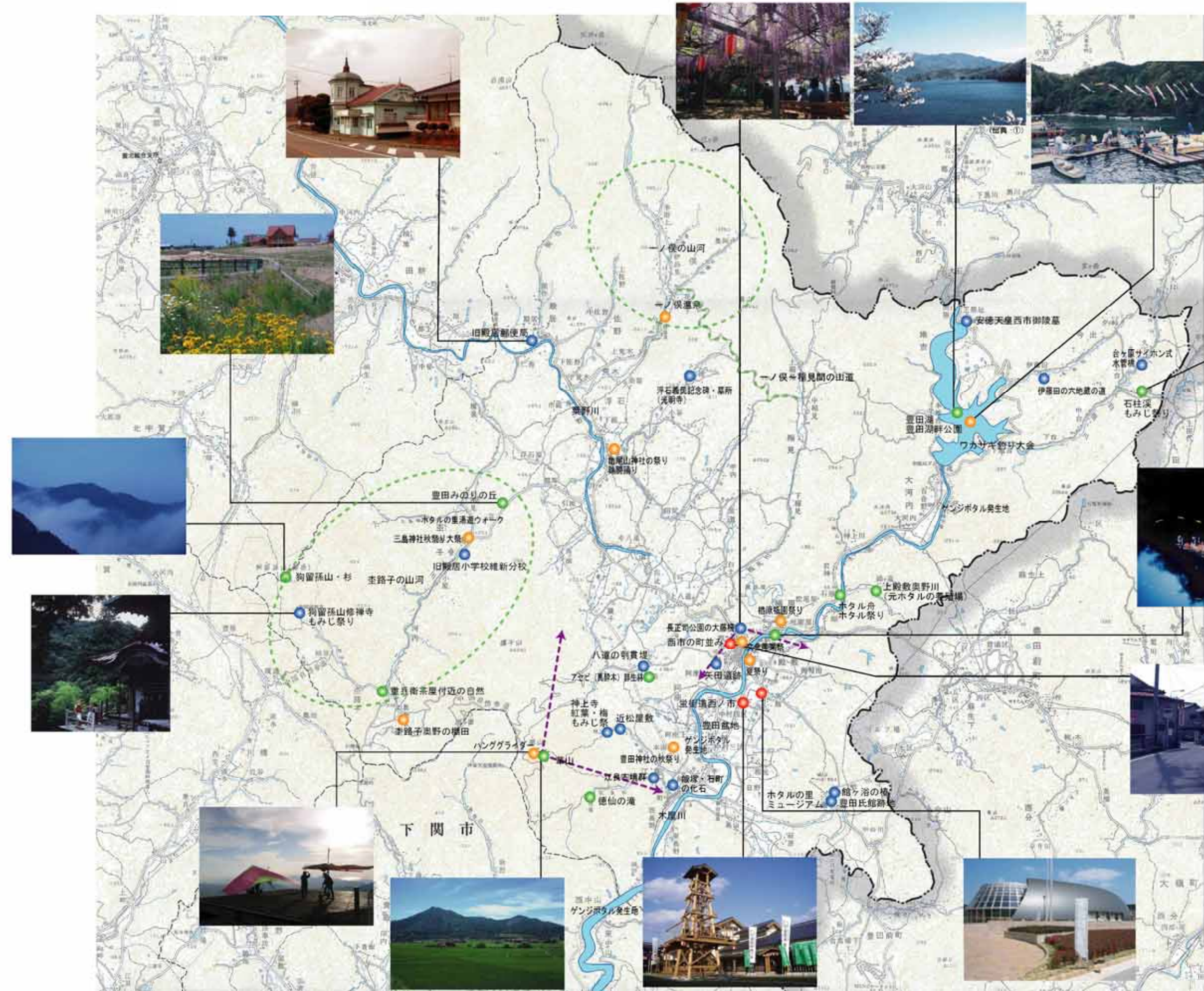
〈写真の出典〉
 ①: しものせき観光HP
 その他記載なきものは、ふるさとのもちムラ100景
 (下関地域づくり推進実行委員会)HP

図2-59 景観資源図 菊川地区

< 景観資源図 豊田地区 >



- 凡例
- 自然
 - 歴史
 - 都市・まち
 - 暮らし・文化
 - ↑ 代表的な眺望点



- その他
- ・住宅用太陽光発電システム普及日本一
 - ・笹祭り(大河内)
 - ・華山太鼓
 - ・豊田梨

写真の出典
 ①: しものせき観光HP
 その他記載なきものは、ふるさとまちなみ100選
 (下関地域づくり推進実行委員会)HP

図 2-60 景観資源図 豊田地区

< 景観資源図 豊北地区 >



図 2-61 景観資源図 豊北地区

